

富山市古洞池におけるワシタカ類：ミサゴ・オオタカの繁殖

篠田 耕児

〒930-0872 富山県富山市下野新町36-2-303

湯浅 輝久

〒933-0825 富山県高岡市佐野緑町48

山野 浩平

〒939-2251 富山県上新川郡大沢野町下大久保3745-25

Raptors- fauna of the Neighborhood of the Furudo- ike Pond, Toyama City,  
Central Japan : Breeding of Osprey and Goshawk

Kouji SHINODA

303 Haitsu-yunibashiti Shimonoshin-machi Toyama City, Toyama, 930-0872 JAPAN

Teruhisa YUASA

48 Sanomidori-cho Takaoka City, Toyama, 933-0825 JAPAN

Kouhei YAMANO

3745-25 Shimo-okubo Osawano-machi Kaminiikawagun, Toyama, 939-2251 JAPAN

From 1993 to 1997, a raptors- faunal survey was carried out at secondary forest of low hill of the neighborhood of Furudo- ike pond, Toyama City, Central Japan. In this survey, seven species belonging to 2 families, order Falconiformes were recorded in the Area. We confirmed that two species, *Pandion haliaetus* and *Accipiter gentilis*, were breeding in this area. The breeding season of former species seems to be the late March to early in August. That of the latter species seems to be middle of March to early in July. We observed that the breeding of the former species succeeded in 1993, 1995 and 1997, but failed in 1994, 1996, 1997. Whereas, the latter species succeeded from 1993 to 1995, but failed in 1996 and 1997. The cause of failure of breeding of those species considered to be both due to artificial factors and natural factors.

**Key words** : Furudo-ike Pond, Raptors-fauna, Osprey, Goshawk, White-tailed Eagle

1993年～1997年にかけて、富山市三ノ熊地内古洞池周辺の「県民公園野鳥の園」においてワシタカ類の生息調査を行い、7種のワシタカ類を確認した。このうちミサゴとオオタカは本地域に定着し繁殖していることが明かとなった。ミサゴの繁殖期は3月下旬頃から8月上旬頃、オオタカは3月中旬頃から7月上旬頃と推測された。ミサゴの繁殖の成功は1993年、1995年、1997年、失敗は1994年、1996年、1997年（営巣した2巣のうち1つ）、オオタカでは1993～1995年に成功し、1996年と1997年に失敗した。繁殖の失敗原因としては自然的要因の他、人為的要因が大きいのではないかと考えらる。

キーワード：古洞池、ワシタカ類、ミサゴ、オオタカ、オジロワシ

## はじめに

富山県におけるワシタカ類の生息状況は、イヌワシ（日本イヌワシ研究会，1987；池田1991，1992，1993，1996；池田ほか1989a，1989b，1990，1997a；山本，1992），ミサゴ（穴田・村山，1996），クマタカ（池田ほか，1997b），ハヤブサ（篠田ほか，1994），チョウゲンボウ（村山・穴田，1997）の報告や環境アセスメントによるワシタカ類の調査等，断片的にしかわかっていない。また，ワシタカ類は生息数が少なく，長期にわたる繁殖記録も重要であるが，このような視点から

の調査もほとんどみられない。今回，富山県中央部の丘陵地帯において，ミサゴ，及びオオタカの繁殖を中心に，ワシタカ類の調査を行なったので報告する。

なお，筆者らは富山市古洞池において，1994～1996年にかけて鳥類相調査を行なったが（湯浅ほか，1997），今回の報告は，1996～1997年に引き続き行ったワシタカ類の生息調査と，筆者の一人篠田による1993～1995年のミサゴとオオタカの調査結果をまとめたものである。

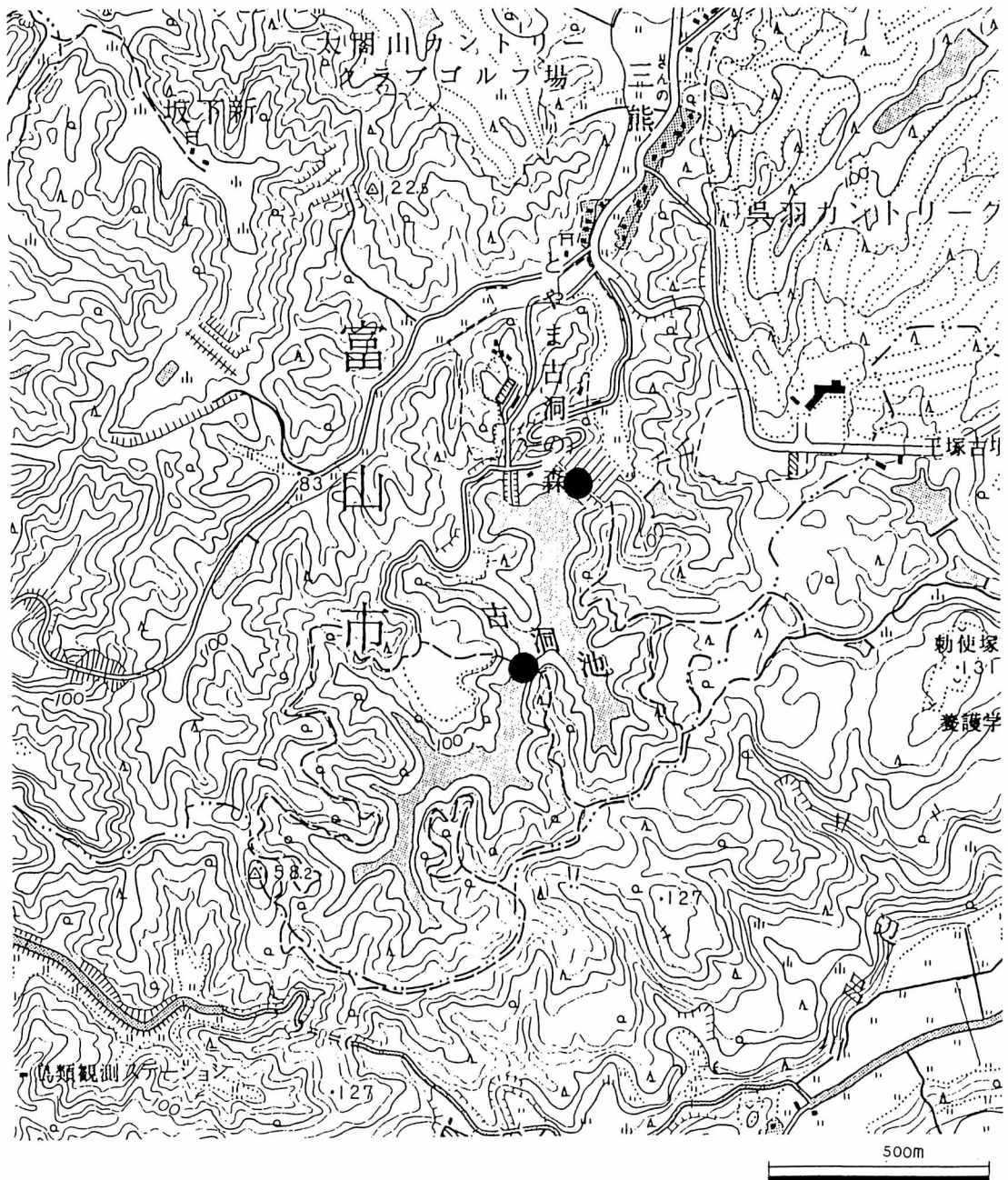


図1 調査地点。

● 定点観察地点。国土地理院発行 1：25000地形図「宮森新」を使用した。

表1 古洞池周辺で確認したワシタカ類

科名	種名	学名	レッドデータ指定	主な記録
タカ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	危急種	表2参照
	トビ	<i>Milvus migrans</i>		7-IV-1996,繁殖の可能性(警戒行動)
	オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	絶滅危惧種	27-II-1995,2羽 ;1-II-1997,1羽
	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	危急種	表2参照
	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		23-IX-1995,1羽
	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		14-XII-1996,1羽
ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	危急種	23-X-1995,1羽

表2 古洞池におけるミサゴ及びオオタカの繁殖記録

ミサゴ

年	営巣	抱卵	巣立ち(数)
1993年	○	○	○ (2)
1994年	○	○	×
1995年	○	○	○ (1)
1996年	○	○	×
1997年	○	○	○ (1)

オオタカ

年	営巣	抱卵	巣立ち(数)
1993年	○	○	○ (3)
1994年	○	○	○ (1)
1995年	○	○	○ (1)
1996年	○	○	×
1997年	○	○	×

調査方法

調査は、1993～1997年に、ミサゴ及びオオタカの繁殖の調査を中心に行い、1996～1997年にかけては、ワシタカ類の調査を行なった。ワシタカ類の調査はダム取水口およびどんぐり橋で定点観察を行い(図1)、リスト作成と行動を記録した。営巣を確認した場合には繁殖活動の妨害にならないように細心の注意をはらい、1週間程度の間隔を空けて1回あたり5分以内の状況把握のための観察を行なった。営巣木への接近、巣内の視認、ブラインドの設置は行わなかった。また、1996年の繁殖活動終了後、営巣地の周辺環境の記録を行なった。なお、ワシタカ類の保護のため営巣位置は示さない。

調査結果及び考察

1. 主な種別観察記録

計7種のワシタカ類を観察し(表1)、そのうちミサゴ、オジロワシ、オオタカは、環境庁のレッドデータブック掲載種であるとともに古洞池周辺を繁殖地または越冬地として定常的に利用していることが確かめられたので、以下にこの3種の観察記録を記す。1993-

1997年のミサゴとオオタカの繁殖記録は表2に、営巣地の周辺環境の調査結果を表3、図2、3、4、5に示した。

(1) ミサゴ *Pandion haliaetus*

1993年5月20日に古洞湖畔にオオタカの巣を確認するとともにミサゴの巣も確認した(表3、図2・3)。巣は尾根近くのアカマツの樹冠部にあり、巣の中には雌成鳥が座っていて抱卵中か抱雛中であつた。6月18日に巣内から頭を突き出している雛1羽が見られた。7月1日には2羽の雛を確認した。8月18日には巣から飛び立って行く1羽と巣内で羽繕いをしている1羽の計2羽の幼鳥を確認できた。

1994年には抱卵後期か育雛初期の段階で失敗している。4月13日には抱卵を始めていたと考えられる。しかし、5月上旬の強風のため巣材の一部が松の木の上に散乱し巣は低くなつていて、5月19日、5月23日ともに巣の周辺には成鳥の姿は見られなかった。6月23日の観察では2羽の成鳥が巣にいて繁殖をし直したかと思われたが、その後、雛の姿は見られなかった。

1995年には、5月2日に抱卵中と思われる成鳥1羽が巣の中に座っていた。6月30日に1羽の成鳥が巣の中で両翼を半ば広げていて、その下に雛が1羽いるのが見られた。7月13日には巣立ち間近と思われるほど成長した幼鳥が1羽いた。

1996年は繁殖に失敗した。4月7日には交尾行動や巣作り行動が見られたが、4月28日には巣を使っていなかった。その後、成鳥が巣の中で立っている姿は観察できたが繁殖のためには巣は使われなかった。6月29日になって、約500m離れた別の尾根のアカマツの樹冠部に新たな巣があるのが分かった。この第2巣は作りかけでこの年には使用されなかった。

1997年は3つのミサゴの巣が確認された。第1巣では8月上旬に幼鳥1羽が巣立った。第2巣は前年より厚みが増していたが、繁殖には使わなかった。この第2巣の近くにおいて、アカマツの樹冠部にある第3巣

表3 ミサゴ及びオオタカの営巣木の周辺環境

種 名	営巣樹種	樹高	巣の位置	胸高直径	斜面の傾斜	斜面の方 位
ミサゴ	1) アカマツ	15m	15m	43 cm	20°	60°
オオタカ	2) アカマツ	15m	14m	49 cm	25°	280°

アカマツ以外の主な樹種 (++++最も多い)

- 1) ヒサカキ++++, ネジキ++, アオキ++, コナラ++, ユズリハ+, コシアブラ
- 2) コナラ++++, ヒサカキ++++, ウリハダカエデ++, ホオノキ++, ネジキ++, ガマズミ++, イヌツゲ+



図2 ミサゴの第1の巣(1996年)



図4 オオタカの巣(1994年に繁殖に成功した巣で、1997年まで使用)

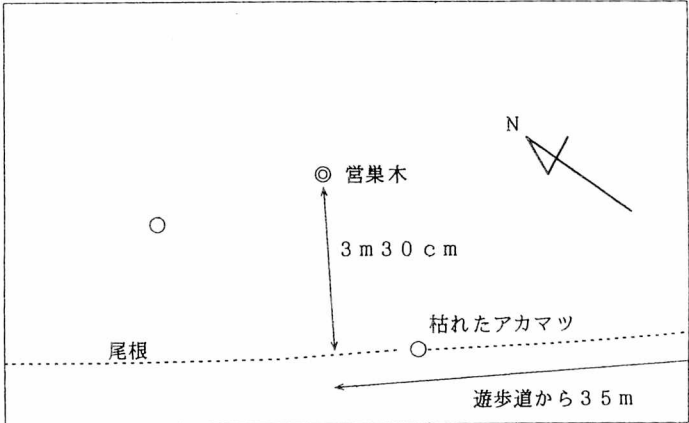


図3 ミサゴの営巣木周辺の見取り図(1995年)

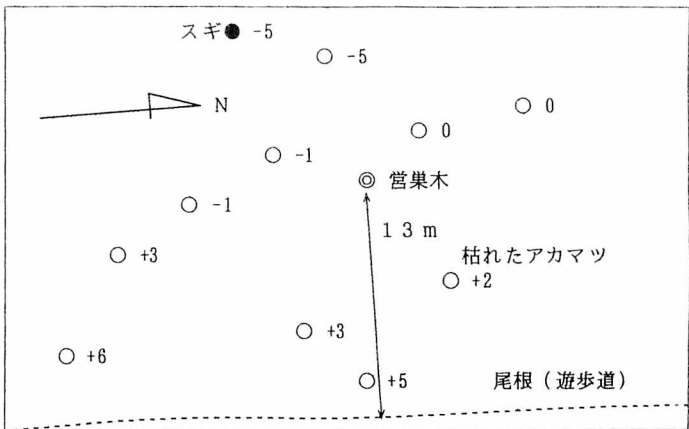


図5 オオタカ営巣木周辺の見取り図(1996年)

が発見された(穴田氏私信)。第3巣では5月19日の育雛初期まで順調にいったが、5月22日には放棄され繁殖に失敗した。また、第3巣で育雛中の時期に第1巣でも抱卵中であった。

今回の観察結果より、古洞池ではミサゴは1～2ペアが繁殖していると考えられる。ミサゴは4月上旬までに巣作りをし、4月上旬～中旬に抱卵に入る。孵化は5月中旬～下旬と考えられ、5月～6月は育雛期になる。7月上旬から中旬にかけて1～2羽の幼鳥が巣立ちしている。1997年に繁殖した第1巣の場合、5月上旬に抱卵、6月初旬に孵化し、8月上旬に1羽が巣立ちした。1ヵ月ほど繁殖期がずれたのだが、それで

も繁殖に成功することが分かった。1997年から記録された複数営巣については、今後の推移に興味もたれる。

## (2) オジロワシ *Haliaeetus albicilla*

オジロワシは、1995年2月には2羽の越冬が確認されていた(湯浅ほか、1997)。しかしその翌冬は記録できず、さらに1997年1月中旬まで観察できなかった。1997年1月21日には観察されなかった。この時には池は湛水時より2桁程水位が低下しており、カモの数も30羽足らずであった。2月1日に本種の亜成鳥が1羽、どんぐり橋辺りを左岸から右岸へ飛んでいくのが見ら



れた。池の水位は回復していて、100羽程のカモがいた。

オジロワシは日本では北海道で少数が繁殖し、富山県には冬に大きな河川や湖沼に訪れる（富山県自然保護課1977, 1980；富山県野鳥保護の会, 1989）。主に魚を食べるが、カモを襲ったり他のワシタカの獲物を横取りすることもある。本種は、冬期、古洞池に1～2羽が定期的に訪れている。しかし、池の水位が低下して獲物となるカモ類が少なくなった時には観察されないことがある。

### (3) オオタカ *Accipiter gentilis*

古洞池周辺のオオタカの巣は10年程前にアマチュア写真家によって確認されていた。筆者の一人篠田が観察を始めたのは1993年からである。1993年5月20日に初めて古洞池畔のアカマツにオオタカの巣を確認した。この時は雌成鳥1羽が巣の中に座っていて、抱卵中あるいは抱雛中であつた。6月2日には、雌成鳥が巣の縁に止っており巣の中から雛の白い頭が1つ出ているのが見えた。6月21日には巣の中に4羽の雛を確認した。うち3羽は上面が暗褐色の幼羽になっていて、胸には暗褐色の縦斑が出ていた。残り1羽は、成長が遅れていて、体全体がまだ白い羽毛であつた。7月上旬には巣立ちした3羽の幼鳥が飛び回っているのが確認された。4羽目の雛がどうなったのかは不明である。

1994年、巣は冬の間の積雪のために傾いていたが、4月5日には新しく巣に枝が積み上げられ、松の青葉も入れられていた。しかし、4月13日には巣は落ちてなくなっていた。おそらく4月上旬に吹いた強風のために吹き飛ばされたと考えられる。その後、巣のあったアカマツの木には巣を作り直さなかった。7月13日に池の奥の松林から「ピーユ、ピーユ」と鳴く声が聞こえてきた。その鳴き声より、オオタカの幼鳥が1羽、松の木に止まっているのが確認できた。さらに、アカマツの木にオオタカのものと考えられる巣を発見した（表3、図4・5）。巣は、アカマツの樹冠に近いところにあり、周辺の林は、低木層と高木層の間に一定の空間がある。前出のアマチュア写真家に対する聞き込みによると、この巣は前年までトビが使っていたとのことで（それ以前はオオタカが使っていた）、1994年はこの巣で繁殖をやり直し、1羽の幼鳥を巣立たせたことが分かった。また、4月上旬に落ちた巣の近くには卵が2個落ちていたとのことで、産卵まで至っていたことも判明した。

1995年は、前年度に繁殖に成功した巣が使われ、1羽の幼鳥が巣立った。3月7日には巣内に松の青葉が入っていなかったが、3月14日には入っていた。3月

10日前後から巣作りが始まったと思われる。5月2日には巣の中に雌の成鳥が座っており、抱卵中か抱雛中であると考えられた。6月23日には1羽の雛が巣の中に立っているのが見られた。全身淡い茶色の中に暗褐色の幼羽が現れてきていた。7月7日には、幼鳥はすでに巣立っていて、林の中を飛び回っていた。

1996年、1997年は1994年から同一の巣で、続けて繁殖に失敗した。1996年には6月15日に、1997年には5月22日に抱卵後期か育雛初期と考えられる時期に雌成鳥が巣を放棄していた。他の場所で繁殖をやり直した形跡は見られなかった。

今回の観察結果より、古洞池のオオタカは2月下旬には成鳥の姿が巣の周囲で確認され、前年使用した巣に新たに木の枝や松の青葉が入れられているのは、3月中旬～4月上旬にかけてと思われる。抱卵開始は、4月上旬～4月下旬と考えられる。巣内に白い羽毛に覆われた雛が見られるようになるのは6月上旬頃であり、巣立ちは7月上旬頃である。確認された雛の数は1～4羽、巣立った幼鳥は1～3羽であつた。

遠藤（1996）によると、オオタカの繁殖生態としては、1～3月が求愛・造巣期で産卵は4月から5月に行われる。一腹卵数は2～3卵が多い。抱卵日数は35日～38日で、5月中旬～6月中旬にかけて孵化し、孵化後35～40日で巣立ちする。巣立ちは6月下旬～7月上旬になる。巣立ち数は1～4羽である。古洞池のオオタカの場合、観察例は少ないが、一般的なオオタカの繁殖習性とほぼ一致すると言える。

## II. 古洞池におけるワシタカ類の生息状況

ワシタカ類は食物連鎖の頂点に位置し、生物の多様性を示す指標となっている。また個体数が減少している希少種が多い。古洞池周辺では、レッドデータブック危急種のオオタカおよびミサゴが定着し、ほぼ毎年営巣し繁殖活動を行なっている。しかし1996年にはいずれも繁殖に失敗し、1997年にはオオタカが引き続き繁殖に失敗、ミサゴは2つある繁殖巣のうち1つで失敗している。繁殖の失敗原因として、繁殖前期にあたる4月に入ってから積雪や強風が自然的要因としてあげられるが、遊歩道や周辺地域の利用者数の増加に伴う人為的要因が考えられる。ミサゴについては、繁殖木のある林への釣りボートの不用意な接近が大きな影響を与えていると考えられる。オオタカについては、一部のバードウォッチャーによる長時間の写真撮影や観察が繁殖の妨げになっているのではないかと考えられる。つねに警戒を強いられる状態が続くと、営巣場所の移動や消滅も予想される。オオタカは、いわゆる里

山と呼ばれる丘陵地帯が主な繁殖地であり、このためゴルフ場造成などの開発によって生息が脅かされることがある。

このほかハヤブサ（危急種）、オジロワシ（絶滅危惧種）がカモ類を狙って池周辺に出現することが確かめられた。冬季ノスリが飛来することもある。一方、県内の低山地に普通に見られるサシバが記録されなかったことは、オオタカなどの他のワシタカ類との競合による可能性がある。今後も調査を続けていけば、観察例数の少なかった種や、確認されなかった種についても記録されることが期待できる。

古洞池のワシタカ類の保護のためには、鳥獣保護区の指定がなされているとはいえ、今後の人の入りこみなどの状況には、細心の注意を払う必要がある。また、ワシタカ類の保護に対する十分な啓蒙が必要である。

#### 謝 辞

この報告をまとめるにあたり、数々の観察データを提供して下さった富山市ファミリーパーク公社の穴田哲氏、調査を手伝って下さった山本敏夫、新井昌江、松木洋の各氏に感謝する。本文をまとめるにあたりご教示下さった富山市科学文化センター副館長布村昇氏、南部久男氏にお礼申し上げる。

#### 参考文献

- 穴田哲・村山美佳, 1996. 富山県西部におけるミサゴの繁殖状況（講演要旨）. 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集：45
- 遠藤孝一, 1996. オオタカ. 日本動物大百科第3巻 鳥類Ⅰ：pp. 152-153. 平凡社. 東京.
- Ikeda, Y. 1991. The status of Golden Eagles in Hokuriku, Japan. Wildlife Conservation. (Ed.by N.Maruyama et al.) : pp.178-180. Japan Wildlife Research Center, Tokyo.
- 池田善英, 1992. 黒部峡谷におけるイヌワシ調査報告（1991年度）. 日本黒部学会紀要(3)：13-15.
- 池田善英, 1993. 富山県におけるイヌワシの繁殖生活と現状. グルーミング, (20)：4-7（財）富山市ファミリーパーク公社.
- 池田善英, 1996. 石川県におけるワシタカ類の現状.

- いしかわ人は自然人, (34)：31-33 自然人編集室. 石川.
- 池田善英・山本正恵, 1989a. 富山県におけるイヌワシの文献調査. *Aquila chrysaetos*, (7)：20-22.
- 池田善英・山本正恵, 1989b. 富山県におけるイヌワシの樹木営巣例（講演要旨）. *Aquila chrysaetos*, (7)：37.
- 池田善英・小川悟・小沢俊樹・今森達也・池田真弓, 1997a. 富山県におけるクマタカも生息分布と繁殖状況. 1997年度日本鳥学会大会講演要旨集：130
- 池田善英・池田真弓・小川悟, 1997b. 富山県における伝統的イヌワシ営巣地での保護対策. 1997年度日本鳥学会大会講演要旨集：132
- 池田善英・山本正恵・松村俊幸・太田道人, 1990. 富山県におけるイヌワシの分布と個体数推定. 富山市科学文化センター研究紀要, (13)：131-140.
- 村山美佳・穴田哲, 1997. 富山市内人工構造物に営巣したチョウゲンボウ3巣から得られたペリットの繁殖期における食物分析（講演要旨）. 1997年度日本鳥学会大会講演要旨集：72
- 日本イヌワシ研究会, 1987. 第12回イヌワシ合同調査報告（富山）. *Aquila chrysaetos*, (5)：22-23.
- 篠田耕児・松木洋・矢田浩一郎, 1994. 富山県におけるハヤブサの繁殖初記録. *Strix*, (13)：254-255.
- 富山県自然保護課, 1977. とやまの野生鳥獣. 富山県. 147pp.
- 富山県自然保護課編, 1980. 富山県の鳥獣. 富山県. 242pp.
- 富山県野鳥保護の会, 1989. 富山県の鳥類－自然環境管理計画策定のための調査－. 富山県. 104pp.
- 山本正恵, 1992. 富山県におけるイヌワシの生息・繁殖状況. *Aquila chrysaetos*, (9)：27-31.
- 山野浩平・穴田哲, 1994. 呉羽丘陵の鳥類. 富山市呉羽丘陵自然環境調査報告（富山市科学文化センター）253pp：211-234.
- 湯浅輝久・山野浩平・篠田耕児, 1997. 富山市古洞池の鳥類. 富山市科学文化センター研究報告, (20)：91-101.